

医挑む

第1部 寿都から



「手作りのクッキー、さくさくだね」。美聡ちゃん(10)と母の幸子さんの訪問を喜ぶ町立寿都診療所所長の中川さん(右)――国政映像

と、小学4年の美聡ちゃん(10)。「今年はいんフルエンザにもかからず、元気です」。美聡ちゃんが診療所所長の中川貴史さん(34)に、手にしたおみやげと手紙を差し出す。

①地域と育つ

日本海を覆む後志管内寿都町。3月の風が根雪を解かしていく。また、突き刺すような寒風が吹いていた2月14日のバレンタインデーの夜。町立寿都診療所に外来患者の姿が消えたころ、医局を訪ねる母がいた。



「何があったら助けられない。救急車で送らなければならない。何かあったら助けられない。救急車で送らなければならない。何かあったら助けられない。救急車で送らなければならない。」

中川先生へ
いつもありがとうございます。ごさいます。チョコクッキーを作りました。

家庭医 信頼積み上げ

4億円の巨額赤字、開所して4カ月が廃止された道立寿都診療所。しかし、小児用の医

「この町は高度な医療はないけれど、家族のつらさを受け止めてくれる医師がいる。この安心感に他に代えられない」と幸子さん。

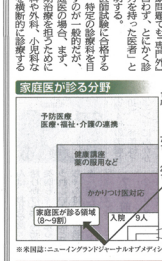
安心の拠点に
町立寿都診療所の常設科は「家庭医療科」だけだ。中川さんはいわゆる「家庭医」で、さまざまな疾患の初期治療に当たる。「患者さんの危機と地域の問題を一緒に乗り越える」と中川さんは言う。

医挑む

「1面からつづく」
後志管内寿都町の町立寿都診療所所長の中川貴史さん(34)ら「家庭医」とは、どんな医師なのか。

「この町は高度な医療はないけれど、家族のつらさを受け止めてくれる医師がいる。この安心感に他に代えられない」と幸子さん。

「この町は高度な医療はないけれど、家族のつらさを受け止めてくれる医師がいる。この安心感に他に代えられない」と幸子さん。



「体のこと、心のこと、どんなことでも相談に乗ります」。所長の中川さん(中央)をはじめとする町立寿都診療所の5人の家庭医たち

「この町は高度な医療はないけれど、家族のつらさを受け止めてくれる医師がいる。この安心感に他に代えられない」と幸子さん。

「この町は高度な医療はないけれど、家族のつらさを受け止めてくれる医師がいる。この安心感に他に代えられない」と幸子さん。